

「保健医療科学」
第73巻 第1号 予告

特集：Recent topics in public health in Japan 2024

- A history of Japanese patients: What has been done to them and what have they been doing? (仮題)
..... TAKEMURA Shinji
- Prevention and Future Issues of Karoshi and Suicide by overwork in Japan (仮題) YUKAWA Keiko, et al
- Community-inclusive society and integrated care in Japan: Concepts and issues for practice (仮題)
..... OTAGA Masaaki
- Patient safety in long-term care in Japan (仮題) TANEDA Kenichiro, et al
- Epidemiological topics in Japan in the last decade (仮題) UEHARA Ritei

編集後記

地域包括ケアシステムとは何か、介護保険における保険者機能やその強化とは何か、と問われても、一言で説明するのは難しい。それだけ、いずれの用語も概念も、多岐にわたる内容を含んでいるからではないだろうか。

地域包括ケアシステムは、住み慣れた地域で、自分らしく暮らすことを目指し、医療、介護、予防の他、生活支援や住まいまで、生活に関する広範な内容を含み、さらにこれらを効果的に連動させていくことも求められている。

本特集号で扱った保険者機能とその強化については、介護保険制度施行後20年超の間に、保険者である自治体に求められる機能として、制度の円滑な運用に加えて、地域の実情に応じたマネジメントをすることまで広がってきた。地域により、高齢化等人口統計の状況は異なり、地域資源や、これまでに醸成してきた医療・介護における取り組み、得意分野の蓄積も異なる。果ては、そこに住む住民の文化も異なる。地域の実情に応じたマネジメントをしていこうと言葉にすれば、その必要性は納得のいくものであるが、いざ取り組もうとすると手が止まってしまうといった自治体も多かったのではないだろうか。さらに2017年には、都道府県がこれらに取り組む市町村を支援することが明確に示され、支援方法を模索する自治体と共に、研修を企画する我われも試行錯誤の日々であった。この数年で、理論も実践も、ぐっと蓄積が進んできたところと考えている。

本特集号では、この多岐にわたる保険者機能を強化するための考え方や方法を、種々の視点から解説した。みなが住み慣れた地域で、自分らしく、幸せに暮らしていけるような歩みに向け、少しでも役立つものとなっていたら幸いである。

(医療・福祉サービス研究部 森山葉子)